





## 生体認証テクノロジーのリーディングカンパニー

当社は、1995年の設立以来、産学官連携による独創的なR&Dを展開し、指紋認証を中核とする生体認証テクノロジーのリーディングカンパニーとして確かな地位を築いてきました。DDSはこれからも卓越したバイオメトリクス技術をコアコンピタンスに、世界の産業と社会に貢献してまいります。

### DDSのモノづくり

「安心・安全・使いやすいソリューションの提供」

目利き = 産学連携



大学・研究機関

産学連携  
(共同研究・研究委託)

職人 = モノづくり技術



国内外製造工場

自社製造・製造委託  
(製造)



情報セキュリティ市場

## 株主の皆様へ To Our Shareholders

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと拝察申し上げます。

また、日頃は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社はこの度、第18期事業年度(2012年1月1日から2012年12月31日まで)を終了いたしました。

昨年の日本経済は、円高や日中情勢の悪化による製造業の減産もあって厳しい状況で推移しましたが、当社は堅調な情報セキュリティ需要を背景に指紋認証ソリューション[EVE FA]と多要素認証基盤[EVE MA]の積極的な営業を展開した結果、6期ぶりに営業利益と経常利益で黒字化を達成することができました。

また、2012年10月には資本業務提携に伴う第三者割当増資により、Cybertouch-Tech Co Ltd.(香港証券取引所上場WWTTの100%子会社)から160百万円の資金調達を実施して財務基盤の強化を図りました。

さらに、スマートフォンやタブレットPCの急速な普及による指紋認証センサーメーカーの業界再編を受けて、2012年11月には半導体最大手インテル社の投資子会社等とともに米国の大手指紋認証センサーメーカーであるValidity Sensors,Inc.に対し300万ドルの出資引き受けを行いました。今後は同社との連携を強化して急成長するスマートフォン、タブレットPCへの新たな需要の開拓に努めてまいります。

2013年は、こうした市場の大きな変化を背景に役職員一同、更なる企業価値の向上に努めてまいりますので、株主の皆様には、今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2013年3月



代表取締役社長

三吉野 健滋



## 戦略的パートナーシップで、 激変する認証セキュリティ市場を勝ち抜く



この度香港証券取引所上場のWWTT社と共同で研究開発を推進することを目的に、資本業務提携を結び運びとなりました。認証セキュリティ市場の拡大が予想される今、グローバル戦略に乗り出す両社社長に今後の展望について語っていただきました。

代表取締役社長

三吉野 健滋



WWTT  
〈ワールドワイドタッチテクノロジー(ホールディングス)リミテッド〉  
Kelvin Wong (王國芳)  
会長兼CEO



【プロフィール】

WWTTグループの共同創業者、会長兼CEOで2009年に会社の執行取締役役に任命される。13年を超える電子工学とテクノロジー産業での製造、サプライチェーンマネジメントを行う。

### 指紋認証業界に訪れる 劇的変化へのカウントダウン

**三吉野** 当社がバイオメトリクス事業に参入した頃は、指紋認証のほとんどが金庫等の物理的セキュリティの世界で「カギの代わり」として使われており、情報セキュリティの分野で使われるケースは大企業などに限られていました。今日では、インターネットが日常化した結果、今まで情報セキュリティを使ったことのなかった層にまでID番号や暗証番号が氾濫する状況になっています。こうしたなか、暗証番号よりもカンタンで確実な指紋認証に大きな消費者ニーズを感じており、爆発的に普及するタイミングがきたのではと考えています。

**王** そうですね。指紋認証の普及のもうひとつの理由には、2007年のiPhoneの登場があると思います。それ以前にもiPhoneに似たPDAフォンがありましたが、操作の複雑さから一部のビジネスユーザーだけに普及はとどまっていました。しかし、iPhoneの登場により個人から法人までさまざまなデータをネットワーク上で提供する機会が広がり、認証とセキュリティの重要性が高まってきたのです。昨年7月にはアップル社が指紋センサー最大手のオーセンテック社を買収したことにより、次期iPhoneモデルには指紋認証機能が搭載されるとの観測が出ています。今後はアップル陣営とそれを追隨するアンドロイド陣営がスマートフォン・タブレット、PC製品において指

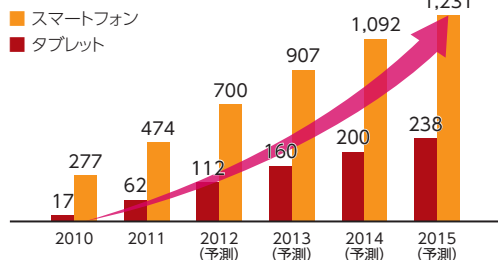
紋認証機能を標準搭載しはじめることで関連市場を大きく押し上げるんじゃないでしょうか。

## 時代が求めるのはストレスフリーの高セキュリティ機能

**三吉野** スマートフォンやクラウド環境の普及が進むにつれ、eバンキングやチャットなど、ネットワークにアクセスし本人確認や認証を求められる機会もますます増加していくでしょうね。セキュリティ機能の強化は当然ですが、暗証番号にとって代わるストレスなく利用できる高いセキュリティ機能が必要とされているんだと思います。

**王** ここ数年、スマートフォンやタブレットPCの登場でパソコンと携帯端末の垣根がなくなると同時に、企業から一般消費者まで携帯端末の需要が拡大しています。ユーザーは家庭でも、外出先でも使える、利便性の高い情報環境を求めています。今後は情報端末を持ち出すことが日常化するなか、外出先などオープンな場所でも安全に使用できる指紋認証搭載の携帯端末が、新興国を含め世界中に普及していくのではないのでしょうか。

世界のスマートフォン・タブレット  
出荷台数の実績・予測 (単位: 百万台)



出所:株式会社矢野経済研究所「世界のスマートフォン・タブレットに関する調査結果 2012」

## 戦略的パートナーを迎え、ピンチをチャンスに!

**三吉野** このような指紋認証市場の拡大は、競争も強まりますがチャンスもたくさん生まれます。チャンスとするためには、研究開発、ビジネスモデル構築などのスピードアップが必須。そこで、この度WWTTの出資を受け入れ、戦略的パートナーとしてタッグを組むことになったわけです。

**王** 当社の強みは世界トップクラスの高い生産性と価格競争力です。当社グループは、携帯端末に搭載されているタッチ패드などの入力装置を世界最大級の生産設備で世界シェアの過半数を生産してきました。また、米国オーセンテック社を代表とする指紋センサーメーカーから指紋センサーを携帯端末に搭載する際のモジュール化の委託を受けており、こちらも世界シェアの半数を占めています。この実績を通じて、指紋センサーなどの生体反応をデジタル化する製品について、最もコストパフォーマンスの高い生産技術・開発技術を培ってきました。

**三吉野** つまり当社がWWTTとパートナーとなったことで、WWTTの生産設備・技術ノウハウを共有する生産提携が可能となったわけです。これは当社が世界的に最も安価で高品質な製品提供ができるようになったことを意味し、グローバル市場で受け入れられる大きな要素になると考えています。

## 培ったコアテクノロジーをグローバル市場へ展開

**三吉野** 当社は「周波数解析法」という独自の認識方式を生み出し、この技術を核にここ数年は従来の方式と「周波数解析法」を融合した「ハイブリッド照合方式」の開発

に注力してきました。また、2007年以降は指紋認証製品だけでなく、サーバー側でさまざまな認証手段を統合管理する「EVE MA」という認証プラットフォームも手掛けています。具体的な共同開発の中身としては、スマートフォン向け指紋認証モジュールや暗証番号機能にとって代わるユーティリティソフト、また、ユーザーインターフェースの多言語化対応、新興国でも購買可能な価格競争力に優れた指紋認証ハードウェアなどの供給を念頭に、幅広い製品を世界に展開していく予定です。

**王** 当社でも今後は、DDSの指紋認証に関するコアテクノロジーをもとに両社の技術・設備を持ち寄ってコストパフォーマンスの高い指紋認証製品の共同開発を行い、戦略的にグローバル市場に製品を供給していくことを目指します。特にスマートフォンやPCに共通して利用でき、メールやチャット、ファイルの暗号化などに指紋認証機能でセキュリティを強化できる「プライバシーQ」というブランドを核にプラットフォームとなるシステム製品群をDDSとともに開発していきたいと考えています。

## 両社のシナジー効果を発揮し、世界的な指紋認証の標準化を目指す

**三吉野** 当面の当社の大きな戦略の柱は「技術の標準化」です。1970年代に犯罪捜査用からスタートした指紋認証技術は各国でそれぞれの技術が培われてきたため、世界的な標準化は一部に限られています。スマートフォンなどに指紋認証が標準搭載されてコアコンポーネントになる機運が見えた今、当社の独自技術が民生用途における世界的なソフトハード両面の標準化に貢献できると考えています。また今後は、指紋認証製品で両社のシナジー効果を追求すると同時に、指紋のみならずさまざまな生体認証の分野で当社独自の技術競争力を高めてい

くことも目指します。創業以来続けてきた大学との産学連携モデルをもとにファブレス型研究開発ベンチャーとしてビジネスモデルを先鋭化していき、売上追求よりも利益率を追求していくことが重要だと考えています。

**王** WWTTは2010年の香港メインボード上場以来、コアテクノロジーに注目して指紋認証関連の技術と生産設備に投資してきました。DDSの持つ業界トップクラスの周波数解析ソフトウェアもそのひとつであり、増資引き受けにより戦略的提携関係を築いてきました。両社は香港市場と東京市場にそれぞれ上場しており、非常に友好的な関係にあり市場での評価も受けています。今後も人間関係によるビジネス推進だけでなく、相互に踏み込んだ技術とビジネスモデルの共有を図り、ビジネスの効率を改善していきたいと思います。特に両社の株主がキャピタルゲインとインカムゲインの双方で利益を享受できることをゴールとして推進していく所存です。



WWTT社本社工場前

# 営業の概況 Review of Operations

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要の効果により緩やかに回復を見せていたものの、長引く欧州債務問題と円高および日中情勢の悪化による製造業の減産に加え、消費税増税議論も相俟って景気の先行きは不透明に推移いたしました。しかしながら、第4四半期の会計期間においては、政権交代による景気浮揚策への期待感より株価が上昇し、為替が円安傾向となり、明るい兆しが見えつつあります。

当社の主たる事業領域である情報セキュリティサービス業界におきましては、BCP(事業継続計画)対応としてシンクライアントや仮想化対応製品の開発が行われたほか、急速に進んでいるスマートフォンやタブレットPCなどの業務活用に向けた情報セキュリティ対応が行われました。生体認証業界においては、日本では静脈認証市場も拡大しつつありますが、世界的には指紋認証センサーメーカーである米国オーセンテック社が、米国アップル社に買収されたことにより、アップル社製品への指紋認証機能の搭載が予想されることから、スマートフォンメーカー各社が指紋認証機能搭載を検討しており、指紋認証が急速に普及する可能性が出てきました。

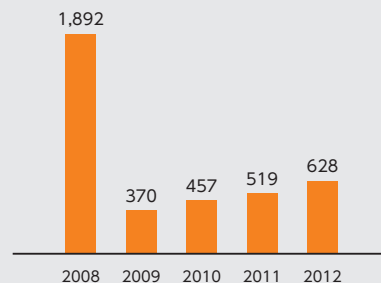
このような経済環境のなか、バイオセキュリティ事業におきましては、指紋認証ソリューション[EVE FA]と多要素認証基盤[EVE MA]について、Slerへの製品説明会を開催するなどの連携強化を図って販路の強化に努めるとともに、Webマーケティングおよび電話営業の強化や大規模展示会への出展など営業マーケティングの多様化を図り、製品認知度を高めて新規顧客の開拓に努めました。さらに、産学連携の国家プロジェクト事業に取り組むなどの業績向上に向けた営業活動を行いました。また、平成24年10月には資本業務提携に伴う第三者割当増資により、提携先のCybertouch-Tech Co Ltd.から160百万円の資金調達を実施して財務基盤の強化を図りました。さらに、平成24年11月には半導体最大手インテル社の投資子会社等とともに米国の大手指紋認証センサーメーカーであるValidity Sensors, Inc.に対し300万ドルの増資引き受けを行いました。

なお、受託開発事業におきましてはアミューズメント向けの受託業務を行うとともに、不動産事業においては名古屋市に所有するテナントビルの賃貸を行いました。

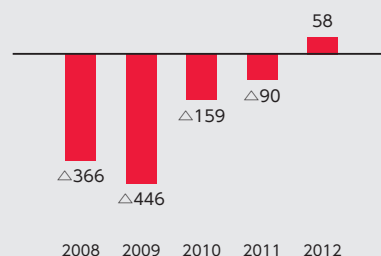
こうした活動の結果、当連結会計年度は営業案件の一部失注や延期があったものの、売上高は628百万円(前年同期比21.1%増)となり、損益面におきましては、指紋認証関連の受託開発案件が順調に推移した結果、営業利益は35百万円、経常利益58百万円となり、6期ぶりに黒字化を達成することができました。また、平成22年に取得した保有不動産の減損損失が66百万円、たな卸資産除却損38百万円などの特別損失を115百万円計上した結果、当期純損失は43百万円となりました。

## 財務ハイライト

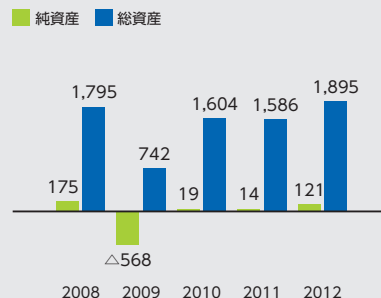
売上高 (単位: 百万円)



経常利益 (単位: 百万円)



純資産／総資産 (単位: 百万円)



## 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前 期 (平成23年12月31日現在)	当 期 (平成24年12月31日現在)
<b>資 産 の 部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>303,175</b>	<b>411,258</b>
現金及び預金	17,298	78,444
受取手形及び売掛金	136,773	208,990
商品及び製品	68,164	40,956
原材料及び貯蔵品	544	232
前渡金	2,335	12,987
前払費用	3,062	13,514
未収入金	203,484	22,690
短期貸付金	2,495	30,000
その他	2,097	3,547
貸倒引当金	△133,081	△104
<b>固定資産</b>	<b>1,283,405</b>	<b>1,484,564</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>1,097,465</b>	<b>1,014,210</b>
建物	432,292	387,576
建物附属設備	—	4,421
車両運搬具	202	137
工具、器具及び備品	3,458	5,407
土地	661,511	616,666
<b>無形固定資産</b>	<b>80,110</b>	<b>62,291</b>
ソフトウェア	79,763	62,051
その他	347	240
<b>投資その他の資産</b>	<b>105,828</b>	<b>408,062</b>
投資有価証券	68,284	343,089
出資金	10	10
敷金及び保証金	20,122	16,580
長期前払費用	141	—
長期未収入金	8,000	44,800
長期売掛金	133,761	157,866
長期貸付金	49,563	49,477
その他	8	8
貸倒引当金	△174,063	△203,769
<b>資産合計</b>	<b>1,586,581</b>	<b>1,895,823</b>

	前 期 (平成23年12月31日現在)	当 期 (平成24年12月31日現在)
<b>負 債 の 部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>781,483</b>	<b>1,032,545</b>
支払手形及び買掛金	35,155	24,226
短期借入金	82,080	135,762
1年以内返済予定長期借入金	475,316	695,129
未払法人税等	7,405	5,251
未払消費税等	13,414	5,110
賞与引当金	3,050	2,612
未払金	37,794	32,542
未払費用	64,318	59,111
預り金	10,289	10,363
前受収益	29,654	38,240
偶発損失引当金	14,026	23,933
その他	8,978	261
<b>固定負債</b>	<b>790,593</b>	<b>742,000</b>
長期借入金	256,011	216,450
退職給付引当金	10,651	10,965
長期前受収益	7,537	32,570
長期未払金	516,393	482,013
<b>負債合計</b>	<b>1,572,077</b>	<b>1,774,545</b>

<b>純 資 産 の 部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>35,107</b>	<b>152,711</b>
資本金	1,714,720	1,795,213
資本剰余金	1,804,736	1,885,229
利益剰余金	△3,484,348	△3,527,731
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△30,550</b>	<b>△57,449</b>
その他有価証券評価差額金	△3,526	23,928
為替換算調整勘定	△27,023	△81,377
<b>新株予約権</b>	<b>9,946</b>	<b>26,016</b>
<b>純資産合計</b>	<b>14,503</b>	<b>121,277</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,586,581</b>	<b>1,895,823</b>



## 連結損益計算書

(単位：千円)

	前 期 (平成23年1月1日から 平成23年12月31日まで)	当 期 (平成24年1月1日から 平成24年12月31日まで)
売上高	519,068	628,367
売上原価	185,923	188,047
売上総利益	333,145	440,320
販売費及び一般管理費	393,008	405,255
営業利益又は営業損失(△)	△59,862	35,065
営業外収益	1,665	59,383
受取利息	1,152	232
受取配当金	0	—
為替差益	—	46,421
雑収入	512	1,042
貸倒引当金戻入益	—	11,687
営業外費用	32,125	35,751
支払利息	20,494	27,019
為替差損	9,251	—
雑損失	23	61
債権譲渡損	264	175
保証金償却費	2,091	—
新株発行費	—	1,518
減価償却費	—	6,977
経常利益又は経常損失(△)	△90,322	58,996
特別利益	273,060	15,420
前期損益修正益	1,445	—
固定資産売却益	30,212	—
退職給付引当金戻入額	2	—
賞与引当金戻入額	617	—
貸倒引当金戻入額	63,180	—
投資有価証券売却益	17,004	—
債務免除益	9,598	15,420
違約金	150,000	—
たな卸資産受贈益	1,000	—
特別損失	190,271	115,836
固定資産除却損	4,579	278
たな卸資産除却損	—	38,578
前期損益修正損	16,807	—
減損損失	5,559	66,859
貸倒引当金繰入額	137,081	—
事業所移転費用	695	—
賃貸借契約解約損	14,026	—
子会社清算損	8,405	—
偶発損失引当金繰入額	—	9,906
和解金	1,000	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,115	—
その他	—	213
税金等調整前当期純損失(△)	△7,533	△41,719
法人税、住民税及び事業税	2,254	1,663
過年度法人税等戻入額	△1,335	—
法人税等合計	918	1,663
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△8,451	△43,382
当期純損失(△)	△8,451	△43,382

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前 期 (平成23年1月1日から 平成23年12月31日まで)	当 期 (平成24年1月1日から 平成24年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	44,020	△6,396
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,948	△318,630
財務活動によるキャッシュ・フロー	△18,648	386,296
現金及び現金同等物に係る換算差額	△639	△123
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	1,783	61,146
現金及び現金同等物の期首残高	15,514	17,298
現金及び現金同等物の期末残高	17,298	78,444

### Point ①

平成24年10月に第三者割当増資を実施し、160百万円の資金調達をした結果、株主資本は152百万円となりました。

### Point ②

利益率の高い指紋認証関連の受託開発案件が順調に推移した結果、連結で営業利益35百万円、経常利益58百万円となり、6期ぶりに黒字化を達成することができました。

## 連結株主資本等変動計算書

(平成24年1月1日から平成24年12月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				その他の包括利益累計額			新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計		
平成24年1月1日残高	1,714,720	1,804,736	△3,484,348	35,107	△3,526	△27,023	△30,550	9,946	14,503
連結会計年度中の変動額									
新株の発行	80,493	80,493	—	160,986	—	—	—	—	160,986
当期純損失	—	—	△43,382	△43,382	—	—	—	—	△43,382
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	27,454	△54,353	△26,899	16,069	△10,829
連結会計年度中の変動額合計	80,493	80,493	△43,382	117,604	27,454	△54,353	△26,899	16,069	106,774
平成24年12月31日残高	1,795,213	1,885,229	△3,527,731	152,711	23,928	△81,377	△57,449	26,016	121,277

## 会社概要

(2012年12月31日現在)

- 会社名 株式会社ディー・ディー・エス  
(英文表記DDS,Inc.)
- 設立 1995年9月
- 資本金 17億9,521万円
- 上場市場 東証マザーズ(証券コード:3782)
- 会計監査人 宙有限責任監査法人
- 所属団体 (社)愛知県情報サービス産業協会
- 主な事業内容 コンピュータソフトウェア・ハードウェア  
の開発・製造・販売、セキュリティ機器の  
開発・製造・販売

## 会社役員

(2013年3月28日現在)

役職名	氏名
代表取締役社長	三吉野 健滋
取締役副社長	柚木 健一郎
取締役	松下 重恵
取締役	貞方 涉
取締役	徳田 清仁
監査役	大島 一純
監査役	宗岡 徹
監査役	山口 順平

※取締役 松下重恵は社外取締役であります。

※監査役 大島一純、宗岡徹、山口順平の3名は社外監査役であります。

## 主な営業所

### ■本社

愛知県名古屋市  
中区丸の内3-6-41  
DDSビル7階



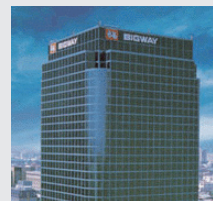
### ■東京オフィス

東京都中央区  
日本橋2-1-20  
Dear日本橋タワー6階



### ■韓国子会社

DDS Korea, Inc.  
韓国ソウル市  
江南区駅三洞677-25  
クングルタワー17階

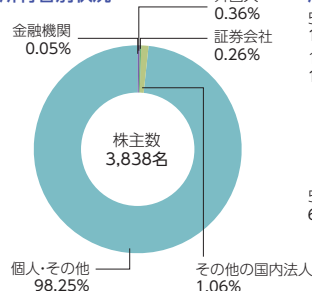


## 株式の状況 (2012年12月31日現在)

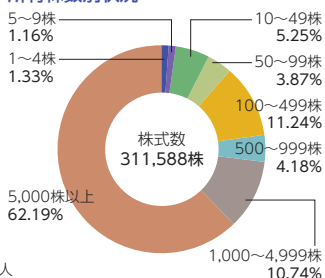
■発行可能株式総数	445,000株
■発行済株式の総数	311,588株
■株主数	3,838名

### ■株式分布状況

#### 所有者別状況



#### 所有株数別状況



## 大株主の状況 (上位10名) (2012年12月31日現在)

(小数第三位切捨て)

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
CYBERTOUCH-TEC COMPANY LIMITED	71,279	22.87
服部 綾子	22,026	7.06
株式会社サン・クロレラ	21,600	6.93
サン・クロレラ販売株式会社	21,000	6.73
袋 正	21,000	6.73
徳田 昌彦	10,540	3.38
服部 幸正	9,009	2.89
株式会社エスト	7,089	2.27
赤羽 憲彦	5,128	1.64
細川 隆	5,119	1.64

(注)大株主順位第1位のCYBERTOUCH-TEC COMPANY LIMITEDは、香港証券取引所上場のWVTTの100%子会社となります。

## ホームページのご案内

<http://www.dds.co.jp/>

当社では、当社の事業内容などを幅広くご理解いただくために、ホームページ上でさまざまな情報を発信しております。

製品情報や当社サービスの導入事例のほか、プレスリリース、採用情報、そして株主・投資家の皆様向けに「IR情報」のページも設けております。

どうぞお気軽にご活用ください。



DDSホームページ



IR情報

## 株主メモ



事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	毎年12月31日
公告方法	電子公告 http://www.dds.co.jp/ir/library.html ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部

	証券会社等に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店	お取引の証券会社等になります。	みずほ証券 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗) でもお取扱いいたします。 * カスタマープラザではお取り扱いできませんのでご了承ください。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店 * トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

## 株式会社 ディー・ディー・エス

〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内三丁目6番41号 DDSビル7階  
TEL 052-955-6600  
URL <http://www.dds.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。